農村の将来像に関する「専門家調査」と「世論調査」について

国土庁地方振興局農村整備課

I 調 査 の 概 要

1. はじめに

国土庁では、昭和６０年には過去における過密過疎のすう勢を緩和して１億2,０００万人余の国民が三大都市圏の市街地（人口集中地区）に4,９００万人、地方都市の市街地（人口集中地区）に3,６００万人、市街地以外の農村部に4,０００万人とほゞ３分して居住するという地方分散型の構想のもとに国土政策をすすめていくこととしている（第三次全国総合開発計画概案）。

このような分散型の定住構想が実現するためには、国民の三分の一が居住し、面積的にも国土の９割を占める農山漁村を国民定住の場としてどのように整備していくかが極めて重要な課題である。

農山漁村における総合環境の整備は、これに加えて、食料問題、環境問題などわが国の社会が21世紀へ向って解決を迫られている困難な問題のなかで、食料の安定的供給、管理された自然環境の維持、培養、自然に恵まれたリクリエーションの場の提供など、農山漁村がその期待される機能を十全に発揮できるような基礎をつくりあげていくという重要な意義をもっている。

このように、農山漁村の整備は4,０００万人の農山漁村居住者のためのものであるに止らず、全国民１億2,０００万人余のための課題でもある。

2. 調査の趣旨

このような認識のうえにたって農山漁村の整備をすすめていくにあたっては、農山漁村の居住者が自らの定住環境としての農山漁村の将来についてどのような期待をもち意欲をもっているかを踏まえ、地域の実態に即した整備をすすめることは勿論であるが、同時に、食料問題、環境問題などの重要性についての認識のなかで、都市居住者を含む国民が農山漁村に何を期待しているかを明らかにしておく必要がある。

農山漁村は、都市の居住者からみると、主要食料の安定供給源や新鮮な食料品の供給地であり、休日にみどりと陽光を求めるリクリエーション空間としてとらえられる。また、水資源の涵養等への期待も大きい。しかしながら、農山漁村の居住者にとっては、何よりも、まず、日々の生活の場であり、自らの生活を支える生産活動の場である。さらに祖先から幾代にもわたってつづいて来た人人の歴史がきざまれた土地でもある。

このような、都市から見た農山漁村と居住者のはだに感じた農山漁村というちがいは、農山漁村の将来イメージに大きな差となって現れる可能性があり、農村整備のビジョンを検討するに当っては、このようなギャップを埋め、国民的コンセンサスをつくりあげていくことが重要な前提条件といえよう。

今回の調査は、このようなコンセンサスとビジョンづくりに接近するための手がかりとして地方振興局が民間調査研究機関に委託して農村の現状と将来像等に関する下記の調査を行ったものである。

(1) 都市に居住する地域問題、農村問題の専門家と農村居住の有識者についての調査（専門家は「農村」をどう評価するか ── 調査機関：財団法人農村開発企画委員会）

(2) 一般の都市居住者と農村居住者を対象とした世論調査方式による調査（農村と都市のイメージとニーズに関する世論調査 ── 調査機関：社団法人新情報センター）

3. 調査のねらいと概要

(1)「専門家は「農村」をどう評価するか」

世論の動向についても、また、国や地方公共団体の政策に関しても「専門家」の果す役割は大きい。さらに、農山漁村整備の実施の現場においても「専門家」は地域住民の意向の集約、施設計画における技術援助などに大きな役割を果している。

しかしながら、農村問題や地域問題についても「専門家」の多くは、大都市、特に首都圏に居住しており、研究会、委員会などの政策立案ないし企画、調査に関する会合も大都市で開かれる場合が多いため、「専門家」による「大都市」での討論が農山漁村の現場の実態や農山漁村居住者の意識から知らず知らずのうちに乖離し、「都会的」な農山漁村イメージで問題を論じ、さらに、そのような発想で「現場」の計画に参加しているのではないかという危惧がある。

この調査では、このような問題意識のもとに、150人の都市居住「専門家」と農村居住有識者を対象として、都市に居住する「専門家」と農村居住者との間に認識のギャップがあるかどうか、あるとすればどのような点が問題かをさぐろうとしたものである。同時に、上記の「都市専門家による農村問題論」の欠かんを補うためには各種の研究会等に相当数の農村居住者に参加を求めることが考えられるが、実際問題としては困難が多いのでこれを補完する方法として、委員会とパネル方式のアンケート調査をフィードバックのループでつなぐ方式をこの調査で提案し試みている。また、パネル方式のアンケート調査への協力者から、極めて積極的に寄せられた自由記入意見についてもこれをできる限り収録し、この調査がより広い範囲での検討の素材となるように工夫されていることも特色としてあげられよう。

(2)「農村と都市のイメージとニーズに関する世論調査」

農山漁村整備の方向づけを行うに当っては、上記のように専門家の機能も重要であるが、農山漁村の居住者が地域の将来についてどのようなイメージをもち、また、何を望んでいるかを把握することが何よりも重要である。しかしこの種の調査は特定の地域については過去においても行われたものが多いが、広く農山漁村をとらえたものは少い。このような農山漁村居住者の農山漁村に対する認識は、都市居住者が見る農山漁村と同じなのかちがうのか、ちがうとしたらどこがちがうのかなど、都市と農村の両方を対象に調査し両者の対比を行うことによってより鮮明にとらえることができると考えられる。

この調査は、このような問題意識のもとに全国の成年男女4,０００人を対象に、世論調査方式で、農村と都市に関するイメージ、農村居住者が都市に望んでいる役割、都市居住者が農村に望んでいる役割、農村居住者と都市居住者の居住志向、施設整備のニーズ等を調査したものである。また、人口の社会的移動にともなう居住経験の差等が意識に及ぼす影響をみるため、農村と都市の居住経験等についても集計し、農村への居住意識をさぐる手がかりとしている。

4. むすび

国土庁では、今後はこれらの調査結果をさらに詳細に分析するとともに農村地域の整備状況の調査、学識経験者等による調査研究などをすすめ、新しい定住空間としての農山漁村の総合環境の整備の方向づけを行っていきたいと考えている。

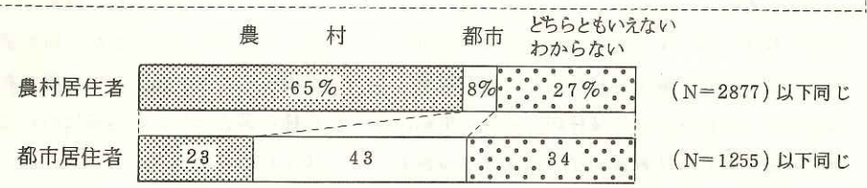
II 結　果　の　概　要

両調査結果の主要な内容は次のとおりである。（詳細については、両報告書を参照されたい。）

1. 農村への定住志向（Uターン志向等）が高まっている。

(1) 農村と都市とどちらが住みやすいか。　（世論調査）

問　あなたは一般的にいって、「農村」と「都市」とどちらのほうが住みやすいと思いますか。



これによると、住みやすさの点において、都市住民が現在の居住空間にいだく自信は、農村に比べて相当少い。

（注）本調査の農村と都市の定義は次のとおりである。

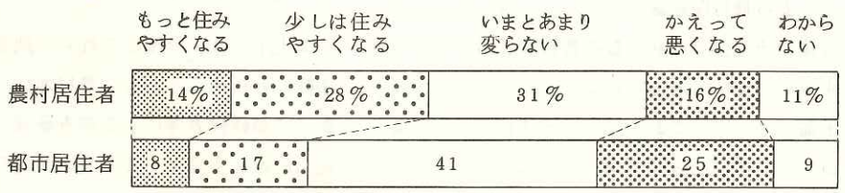
農村……昭和４５年国勢調査区のうち農林業就業者率（１５歳以上人口中に含まれる農林業就業者の比率）５％以上の調査区の区域（市部、町村部を問わない）

都市……上記以外の地域（市部、町村部を問わない）

町村部の調査区特性農林業就業者率５％以上の地域は６倍のウエイトで抽出されている。したがって、集計にさいしては、市部での農林業就業者率５％以上調査区の地域を６倍し、両者を合計して「農村」とした。農村の有効回収数は1,９６３人であるが、ウエイトの規正のため、集計サンプルは2,８７７人となった。

(2) 現在の居住地について将来の見通しはどうか。　（世論調査）

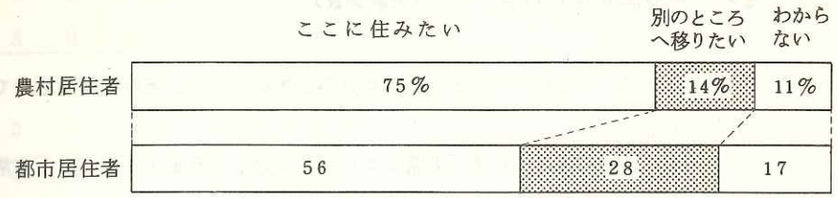
問　いま住んでいるところは、将来、もっと住みやすくなると思いますか、かえって悪くなると思いますか。〔カード〕



将来の住みやすさについて明るい見通しをもっているものは農村の方が多い。

(3) 移　住　性　向　（世論調査）

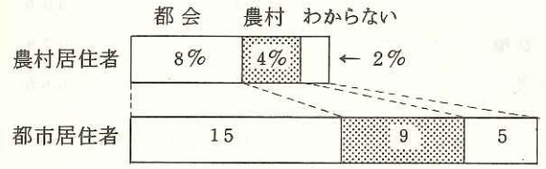
問　あなたは、ずっとここに住みたいと思いますか、別のところへ移りたいと思いますか。



移住意向は都市の方が農村の２倍になっている。

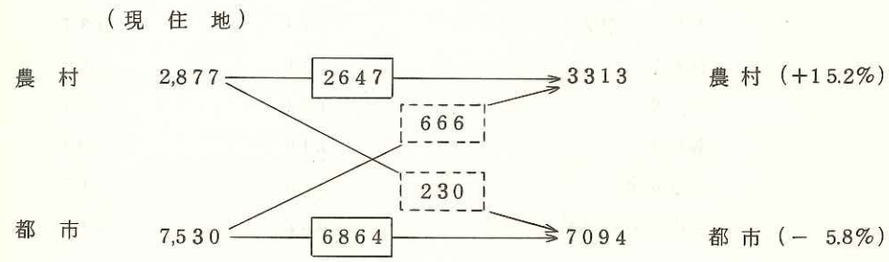
（「別のところへ移りたい」人に）

問　どこへ移りたいのですか。都会ですか、それとも農村ですか。



（参　考）

上記から、単純に希望どおりの人口移動が実現した場合の試算をしてみると次のようになる。



数字は規正サンプル。□は定住人口、⬚は移動人口、右の数字は人口移動が実現した場合の人口。なお「将来の居住希望地」の「不明者」は現住地にとどまると仮定している。

2. このような居住志向が現実のものとならないネックは、農村居住者からみると居住環境整備の立遅れにあると思われる。

(1) 住み心地の満足度の内容　　(世論調査)

> 問　あなたは、いま住んでいるところの住み心地について、どの程度満足しておられますか。〔カード〕
> 　一つ一つの項目について「非常によい」「よい」「普通」「悪い」「非常に悪い」など、あなたの日常の感じを言ってください。

◦都　市 ＞ 農　村　　(農村は、施設、サービス系の立遅れが著しい)

	農村居住者	都市居住者
公共施設の便利さ……	−0.18	0.46
交通機関の　〃　……	−0.06	0.79
日常の買物　……	0.25	0.90
病気のときの医療……	0.26	0.79
ゴミ、し尿処理　……	0.42	0.65

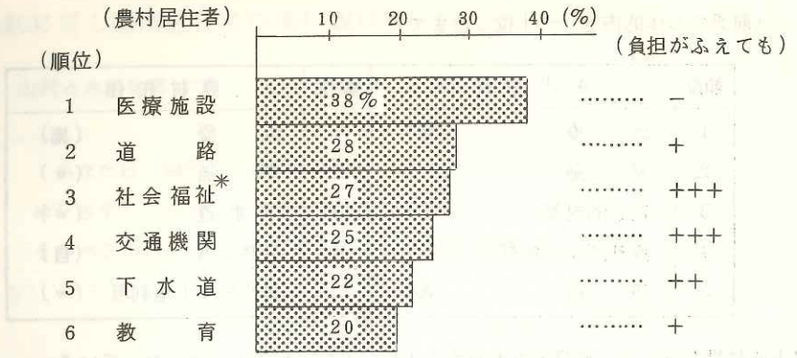
〔「非常によい」＋2、「よい」＋1、「普通」0、「わるい」−1、「非常に悪い」−2のスコアをあたえた平均値〕

◦農　村 ＞ 都　市　　(農村は、自然系では都市よりもすぐれている)

	農村居住者	都市居住者
きれいな空気　……	1.39	0.37
日あたり　……	1.41	0.6
みどり　……	1.31	0.15
静けさ　……	1.10	0.41
交通安全　……	0.36	0.07
子供のあそび場……	0.22	−0.12

(2) 農村でさしあたりよくしてほしい生活環境は何か。　　(世論調査)

> 問　ここにあげた生活環境施設〔カード〕のうち、あなたは、さしあたりどの施設をよくしてほしいと思いますか。



(注) 1. 重複回答である。
2. 「負担がふえても」の欄は、「負担がふえても早急に」とする者の率が「負担がふえるならばおくれても良い」とする者の率を超える度合により次の記号をつけている。
　10%以上　+++　　5〜9%　++　　0〜4%　+
　マイナス　−
3. ＊は老人対策等である。
4. 12 項目のうち上位6施設をかかげた
5. 「負担がふえても」の質問は次のとおり。

> 問　いまお答え頂いたような公共施設を整備する費用は、何らかのかたちで、住民が負担しなければなりませんが、あなたは、ある程度あなたの負担がふえても早く整備すべきだと思いますか、それとも負担がふえるのなら整備がおくれてもやむを得ないと思いますか。

(3) 農村生活環境に関して「住みにくい条件」と考えられるものはなにか。　(「専門家」調査)

> 問　下に、農村生活環境条件に関して、「住みにくい条件」と考えられるものを18ならべてあります。
> Ⅰ　この中から、あなたが重要だと思うものを6つだけ選んで、□の中に○印をつけて下さい。
> Ⅱ　つぎに、Ⅰで選んだ6つの中から、特に必要だと思うものを、2つだけ選んで□の中に◎印をつけて下さい。

(重視する環境系タイプ)

	自然系	施設系	社会系	混合系	計
都市在住専門家	26%	47%	7%	19%	100%　(N=57)
農村在住専門家	40	42	−	18	100%　(N=57)

（前頁の具体的内容 ― 上位５位まで）

順位	都市在住		順位	農村在住	
1	医　療	（施）	1	医　療	（施）
2	交　通	（〃）	2	交　通	（〃）
3	社会的規制	（社）	3	下水道	（〃）
4	無秩序な土地利用	（自）	4	自然災害	（自）
5	道　路	（施）	5	無秩序な土地利用	（〃）

以上の結果をみると、施設系を重視する人が、農村、都市とも多くなっている。

（注）1. 自然系 ――
- ◦風水害・雪害や土砂くずれによる被害がある
- ◦無秩序な土地利用により農村景観がこわされている
- ◦水質汚染や悪臭による被害がある
- ◦農地が荒れている

施設系 ――
- ◦道路が悪く不便
- ◦スポーツ・娯楽活動の施設がない
- ◦医療の質が低い
- ◦集会施設がない
- ◦生活廃棄物（生ゴミや固形物）の処分に不便
- ◦日用品や身の回り品の購入に不便
- ◦下水道が完備していない
- ◦バス・鉄道などの交通が不便

社会系 ――
- ◦住民参加の組織・機会が少ない
- ◦家族内生活の規制が強い
- ◦新聞や雑誌などの購読に不便
- ◦新聞やテレビに地元の事が少ない
- ◦転職がむずかしい
- ◦農村社会生活の規制が強い

2. 「重視する環境系タイプ」の分類は、上記の１８項目につけられた回答を点数換算した。三つの系に属する選択肢の数が均等でないので、「修正得点係数」で修正し各個人の三つの系別の構成比率を出し、一つの環境系が５０％をこえるものを、その人の「重視する環境系タイプ」とした。また、どの系も５０％にならない人を「混合系」とした。

3. これに対し都市居住者の農村観は情緒的、訪問者的なところがある。

(1) 山村と水田地帯では、どちらが住み良いと考えるか。　（世論調査）

あなたは一般的に「農村」というとどんなことを思いうかべますか。〔カードを示してゆびさす〕この対になっている言葉をみて、一つ一つの項目についてどちらのほうを思いうかべるかおっしゃってください。あまり深く考えなくて結構です。

	（農村景観イメージ）	利便性	快適性	安全性
都市居住者	水田地帯型	−0.65	0.06	0.56
	山村型	−0.55	0.09	0.62
農村居住者	水田地帯型	−0.24	0.12	0.88
	山村型	−0.64	−0.03	0.87

都市居住者は、利便性、快適性、安全性ともに、山村型の方に他よりも高い評価を与えており、都市住民にとっての農村は旅行者としての風景であることを示唆している。

（注）1. 利便性 ……「交通の便」「能力を生かせるか」「買物の便」
快適性 ……「美しさ」「余暇」「人間関係」「豊かな自然」「娯楽」「文化」
安全性 ……「自然災害」「犯罪」「公害」

2. 農村景観イメージの質問「あなたは「農村」というと、どんな風景を思いうかべますか。〔カード〕この言葉の表の中から４つだけえらんでください」の回答タイプによってつぎのように分類した。

- 水田地帯型……ＡＡＡＡ，ＡＡＡ□
- 畑地帯型……ＢＢＢＢ，ＢＢＢ□
- 山村型……ＣＣＣＣ，ＣＣＣ□
- 田畑地帯型……ＡＡＢＢ，ＡＡＢＣ，ＡＢＢＣ
- 農山村型……ＣＣＡＡ，ＣＣＢＢ，ＣＣＡＢ
- その他……上記以外

Ａ……水田、畦畔（たんぼ道）、田植、用水路
Ｂ……野菜畑、桑園・茶畑、果樹園、畑
Ｃ……山、森林、山道、原野

(2) 農村にどんな役割りを期待するか。　（「専門家」調査）

問　日本の国土の望ましい姿を考えたとき、あなたは農村にどのような役割を期待しますか。下に６つの文章がありますが、農村に期待する役割について、あなたが考える重要さの程度を表わすところに、各文章ごとに○印をつけて下さい。

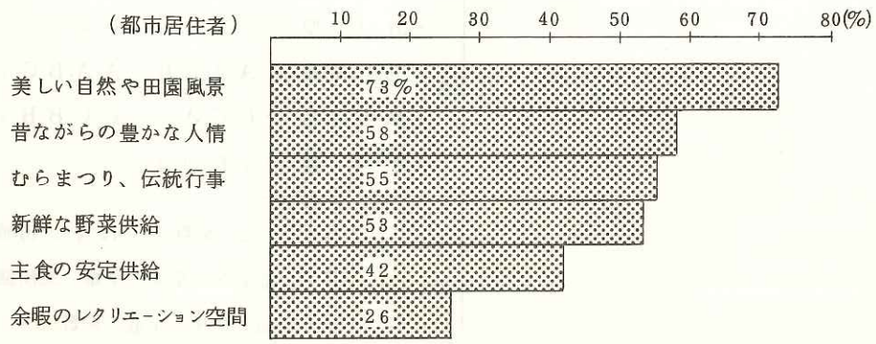
	積極的意見		期待しない	
	都市在住	農村在住	都市在住	農村在住
国民のふるさととしての田園習俗…	72 %	93 %	16 %	2 %
都市住民のレクリエーション空間…	71	36	17	38
国民食料の安定供給……	100	100	−	−
大都市過密解消の空間提供……	57	48	16	28
工業などの立地の場提供……	33	26	41	43

これをみると、都市在住者と農村在住者との間では、農村に期待する役割にかなりの違いがあることがわかる。

（注）1.　□は５０％以上のもの、⬚は「期待しない」ものの方が多い。
2.　積極的意見とは「極めて重要」「かなり重要」「少しは重要」と回答したもの。

(3) 都市居住者にとって、農村はどんなところであってほしいか。　（世論調査）

問　あなたにとって「農村」はどのようなものであってほしいと思いますか。このうち〔カード〕から望ましいと思うものを４つだけえらんでください。



（注）　複数回答である。１０項目のうち、上位６位をかかげた。

4. 農村の定住環境（条件）整備は、農業の安定発展を図るとともに、生活環境施設の整備をすすめ、みどりにあふれる人情ゆたかなむらづくりをめざすことである。

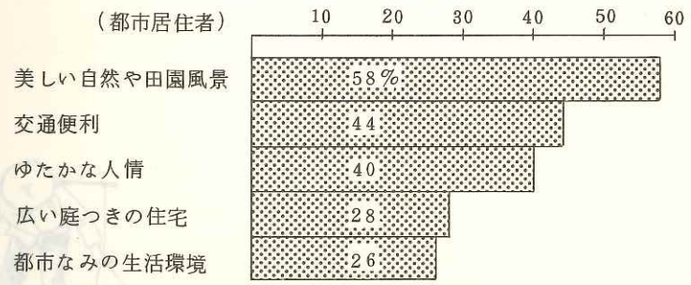
(1) 農村人口定着の条件は何か　（「専門家」調査）

問　「農村の人口が流出しないで、農村に定着する」には、どんな条件を実現することが望ましいと思いますか。
日本の現状と今後１０年後の可能性とを考え合わせて、あなたの意見をお知らせ下さい。

	第１位		第２位	
	農村在住	都市在住	農村在住	都市在住
農業所得の安定	75%	60%	4%	12%
生活環境整備	12	9	40	46
地方都市の就業機会	4	18	18	11
地元の就業機会	−	7	9	11
質の高い教育	4	2	12	9
地元の文化活動	2	−	14	9
地方都市の文化活動	2	2	4	4
個人の権利の尊重	2	4	−	−

(2) 都市居住者が住んでみたくなる農村とは　（世論調査）

問　あなたにとって住んでみたくなる「農村」とは、どんなものですか。このうち〔カード〕から４つだけえらんでください。



（注）　複数回答である。質問は１０項目について回答を求めた。

都市住民は、自然や田園風景、人情や伝統行事など昔ながらの古い農村のイメージを強く望

みながらも、自分が居住する立場では都市的な利便性や公共施設の充実した「新しい農村」も望んでいる。

5. 調査結果からみた農村整備の方向づけ

これら調査結果からみると、今後の農村整備の方向や実施の検討をすすめるにあたっては、次のような点に留意する必要があることになろう。

(1) 全国的な政策の企画立案にあたっても、また、地域における整備をすすめるについても、農村居住者のなまの声が十分に反映されるよう、特に留意することが必要である。

(2) 農村への定住を進め地域社会の安定を図るためには、都市に比べて立遅れている、施設サービス系の生活環境の整備が急がれなければならない。

(3) 都市の居住者が望む農村の機能（食料供給、みどりのレクリエーション空間）については、農村居住者の定住条件の整備を前提に相互理解を深めて、すすめていく必要がある。